

(6) 東 海



東海地域では、景気は足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は弱含んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響もみられる。
- ・ 個人消費は足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱い動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す
(は上方に変更、 は下方に変更)

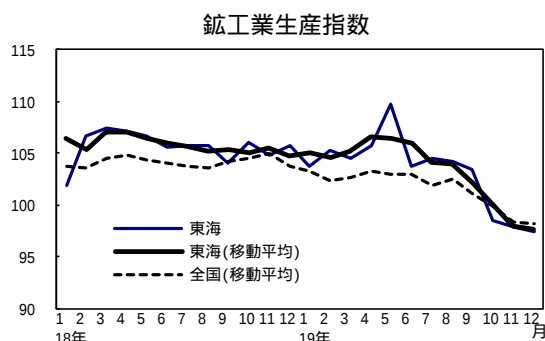
前回からの主要変更点

	前回 (令和元年 11 月)	今回 (令和 2 年 3 月)	
景況判断	緩やかに回復	足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる	↓
鉱工業生産	高水準で推移しているものの、弱さ	弱含んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響もみられる	↓
個人消費	緩やかに増加	足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱い動きがみられる	↓

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は弱含んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響もみられる。

10 - 12 月期には、「輸送機械」は、乗用車、自動車部品が減少したことから、減少した。「電子デバイス、電気・情報通信」は、横ばいであった。「石油・石炭製品、化学、プラ製品」は、減少した。「汎・生産・業務用機械」は金属工作機械が減少したことから、減少した。「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」は、減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10 月	11 月	12 月
輸送機械	40.1	▲3.2	▲8.9	▲7.4	0.7	▲2.8
電子デバイス、電気・情報通信	13.3	▲2.4	▲0.0	▲1.5	▲0.3	2.5
石油・石炭、化学、プラ製品	13.0	▲0.4	▲4.5	▲2.4	▲1.7	▲0.4
汎・生産・業務用機械	11.2	▲3.4	▲6.1	▲3.8	▲4.4	5.6
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	6.4	▲2.3	▲5.3	▲5.1	▲0.9	▲2.8
鉱工業	100.0	▲2.2	▲5.9	▲4.7	▲0.6	▲0.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 15 業種。

2. 10 - 12 月期、12 月は速報値。

(備考) 1. 2015 年 = 100、季節調整値。東海の最新月は速報値。

2. 全国及び東海の太線は中心 3 か月移動平均。

直近月は 2 か月平均。

3. 東海は内閣府にて算出。

2. 個人消費の動向

個人消費は足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱い動きがみられる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

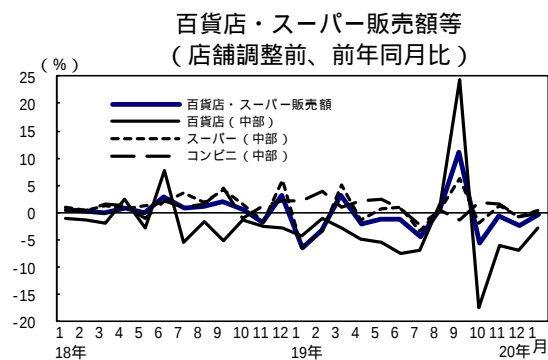
10月は前月比6.7%減、11月は同2.0%増、12月は同0.1%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

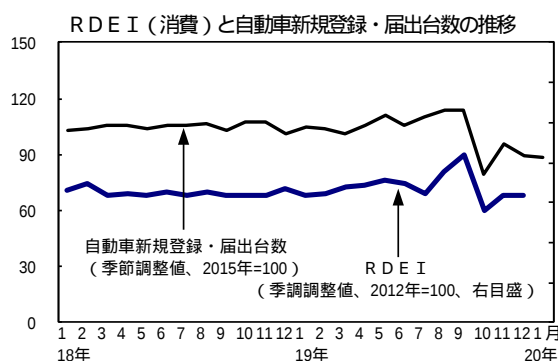
百貨店は、10月は、衣料品等が振るわなかったことから、前年を下回った。11月は、衣料品等が振るわなかったことから、前年を下回った。12月は、衣料品等が振るわなかったことから、前年を下回った。1月は、前年を下回った。

スーパーは、10 - 12月期は、衣料品等が振るわなかったことから、前年を下回った。

1月は、前年を上回った。



	2019年 10-12月	2019年 10月	11月	12月	2020年 1月
RDEI (消費*1)	▲3.3	▲6.7	2.0	0.1	—
百貨店・スーパー(*2)	▲2.8	▲5.6	▲0.5	▲2.3	▲0.3
百貨店(*3)	▲9.5	▲17.5	▲5.9	▲6.8	▲2.9
スーパー(*3)	▲0.4	▲1.8	1.4	▲0.7	0.3
コンビニ(*3)	0.9	1.9	1.7	▲0.8	▲0.1
乗用車(*4)	▲16.1	▲25.6	▲12.2	▲10.6	▲15.3
季節調整値(*4)	▲21.7	▲30.0	19.5	▲6.2	▲0.8



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

2020年1月は速報値。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の中部
(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。

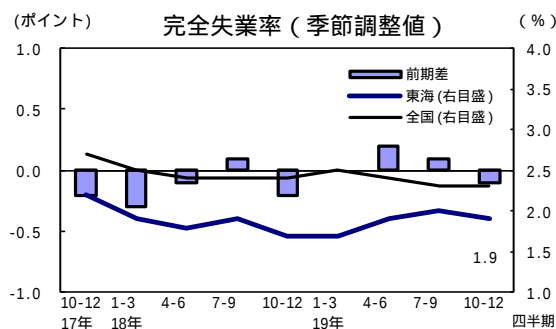
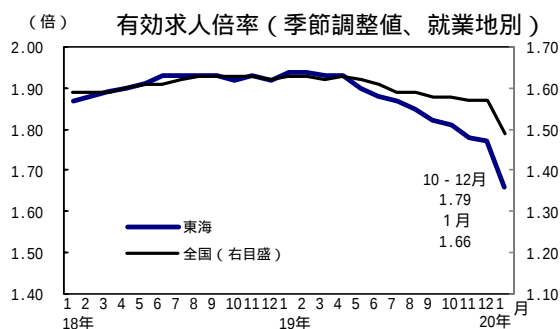
2020年1月は速報値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

3. 雇用情勢

雇用情勢は改善している。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を下回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査 (2020 年 2 月調査) 景気判断理由の概要

6. 東海

(良、○やや良、□不变、▲やや悪、×悪)

	分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	×	・新型コロナウイルスの影響で、受注していた旅行の 70% 程度がキャンセルや延期となっている (旅行代理店)。
		▲	・客との会話で新型コロナウイルスの話題がよく上がるようになってきた。客が気にしているため、強くイベント誘致や店頭誘致をしづらく店頭も活気が感じられない。年度末の増販期ではあるが、多くの客に対して声掛けもできない (乗用車販売店)。
		□	・賃貸業界の繁忙期に入り、入居、退去共に例年以上に増加している (その他住宅 [不動産賃貸及び売買])。
	企業 動向 関連	▲	・国内物量は前年並みだが、新型コロナウイルスの影響で日中間の輸出入は激減している (輸送業)。
		□	・1 ~ 3 月の売上、利益共に前年と変わらず順調な推移となっているが、中国での原材料となる電子部品の生産の遅れから、当社の生産工場の稼働へ少なからず影響がある (電気機械器具製造業)。
		×	・前年末から受注量、販売量の減少が止まらず、併せて新型コロナウイルスの関係で、海外からの部品調達などの不安感があって生産状況も上がっていない。例年比で 5 % くらいは落ちている (鉄鋼業)。
	雇用 関連	▲	・同一労働同一賃金の影響から、4 月以降の先付けの依頼が滞っている。あわせて、新型コロナウイルスの影響から就業希望者も様子見の状態なのか、例年を下回っている (民間職業紹介機関)。
		□	・求人数は減少傾向となっているが、直接窓口や企業からは雇用を控えているというような声は聞かれない (職業安定所)。
	その他の特徴 コメント		× : 新型コロナウイルスでインバウンドも日本人客も来店が激減した (百貨店)。 × : 1 月末から新型コロナウイルスの影響でインバウンド客が減少、2 月以降の予約がキャンセルとなる。2 月中旬より国内客も含めキャンセルや外出控えの影響から、来客数が前年を大きく割り始めた (高級レストラン)。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連	×	・新型コロナウイルスの影響は大きい。3 月以降は、宿泊・宴会共にほぼ全てキャンセルで、4 月の予約は現状ストップしている状況である (都市型ホテル)。
		▲	・今後は観光客以外の外出も控えることが想定され、鉄道利用客が減少し駅ナカ店舗の状況は更に悪くなると見込まれる (コンビニ)。
	企業 動向 関連	▲	・新型コロナウイルス終息のめどが立たず、先行き不透明感は否めない。一方で内食化傾向の高まることで、レトルト食品関係の伸びに期待したい (食料品製造業)。
		□	・北米の自動車関連メーカーでは、新規設備投資の話が遊休機改造に変わるなど、設備投資を抑えようとする引き合いが多い (一般機械器具製造業)。
		×	・新型コロナウイルスの影響で、3 か月先の景気も悪い。また、2 月にスクラップ指標が約 10% 下がっている。スクラップは先行した動きとなるため、景気は引き続き悪い (輸送用機械器具製造業)。
	雇用 関連	▲	・新型コロナウイルスの影響の長期化により、中国関連企業を中心に新規採用を控える動きが見込まれる (人材派遣会社)。
	その他の特徴 コメント		○ : 新型コロナウイルスの影響で内食や家飲みが増え、売上が上がると見込む (スーパー)。 ▲ : 新型コロナウイルスの関係で、当地区は自動車関連事業が多いため大打撃を受けているイメージである。景気の先行きも見通しが立っておらず、下方修正をしながら生産を少なくしていくしかない。大変な時期に入ることもあり、3 か月先の景気は悪くなる (金融業)。

(D I)

現状・先行き判断 D I (東海) の推移 (季節調整値)

